

ふるさと応援団・大分県竹田市

竹田研究所

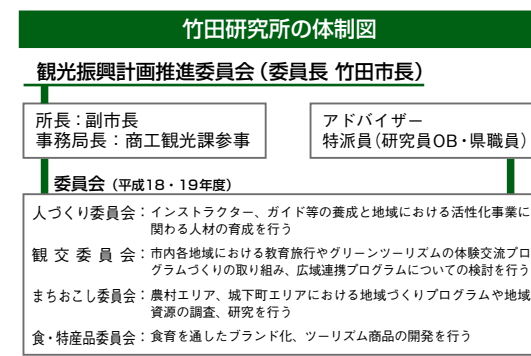
大分県竹田市は、九州のほぼ中央、大分県の南西部に位置し、南部を宮崎県、西部を熊本県に接しています。周囲をくじゅう連山、阿蘇外輪山、祖母山麓に囲まれ、地域の大部分を山林が占める中山間地域です。市内中心部には鎌倉時代からの古い歴史をもち、昭和十一年に国指定史跡となった岡城跡があります。この岡城跡は少年時代を同じで過ごした瀧廉太郎の作曲した「荒城の月」の舞台としても全国に知られ、竹田市の観光名所となっています。

しかしながら、訪れる観光客は、大型観光バスを使った団体ツアーが大半で、大型バスの駐車場がある「岡城」の見学が主たる観光メニューとなり、昔ながらの町割りや社寺、商店街を残す「城下町」は、観光資源として生かされていませんでした。さらに、城下町風情を残す中心市街地は市街地の外側を迂回する国道57号線沿いにできた大型店舗の出現によって活力を奪われ、市の大部分をしめる農村エリアにいたっては、まとまった観光客が訪れることなどなく、農業人口の減少と高齢化などの問題を抱えていました。過疎化が市全体として問題視されている中、市は「人口が少なくなる中、市は「地域の活力が失われること」を大きな問題としてとらえ、「ま

ず竹田市を訪れる交流人口を増やし、地域に活力を与えながら、その中から定住者を生んでいく」という大きな戦略を掲げました。そこで竹田市では、その基となる「観光振興計画」を平成九年に策定したのです。

竹田研究所の誕生
竹田市では、「観光振興計画」を推進するにあたり、「ツーリズム」という言葉を掲げました。そこには、新たな収入源や雇用機会だけを求めるのではなく、同時に地域住民の生活の質の面からも元気にしたい、という思いが込められていたのです。

「竹田研究所」は、設立当初市の助役を所長とし、商工観光課参事を事務局長、そして行政職員と市民を研究員として構成されました。現在は、左図の体制で、研究員は四つの委員会に所属し、足元にある資源を様々な視点からツーリズム資源として見直し、社会のニーズに対して、どのような方法で対応するか調査研究を重ね、様々な活動を支援しています。



そのイベントは「農と食の博覧会」として毎年開催されるようになり、農産物を生み

6つのツーリズム推進地区

竹田市は、町並みを見直そうとしている城下町地区(1地区)や、ツーリズムへの取り組みが期待できる農村地区(5地区)の計6地区をツーリズムの推進地区として定めています。6つの地区が含まれている範囲は東西約10km、南北に約15kmと大変広いのですが、地理的には離れた城下町と農村とをあえて組み合わせることで、ツーリズムの内容に幅ができるほか、「農村で生産したものをまちで消費する」という地域の環境的な循環を生み出す効果などが期待されています。



「百食もの料理・加工品が集まった」食と農の博覧会

開くなどの取り組みも行っています。

ツーリズム推進の弾みとなった「竹楽」

そんな中、観光協会が主催となり、平成十二年十一月、岡城跡一体を三千本の竹灯籠が照らす「竹楽」が実施されました。

「竹楽」は里山の保全を第一に企画されたイベントです。山に手入れされず放置されている竹は、地下茎が杉やヒノキなどの人工林や棚田を侵

食するため、このままでは竹田市の美しい景観までもが崩れてしまう恐れがありました。この「厄介者」を「ツーリズム資源」に変えてしまう一石二鳥の取り組みとして、伐採した竹で作った灯籠を名所旧跡の残る城下町に飾ることにしたのです。さらに使用した竹は工芸品にしたり、竹炭を作って川を浄化し、再び里山に返すというものです。この間、たくさんの方々がボランティアが関わっていますが、その数は回を重ねる毎に増え、竹灯籠の規模も三千本が今では二万本に増えました。また、毎年十一月の三日間の会期中には、城下町一体でコンサート

ツーリズム協会設立へ
市内の各地域団体・組織ではツーリズムの意識が芽生えるようになり、各々が気付けると、各地域のツーリズムが各々に進められている状態になっていました。

来訪者をつなげる新たな組織として、「竹田ツーリズム協会」を設立すべく、竹田研究所や商工観光課、観光協会などが中心となり、奔走しました。そして、平成十八年三月、「竹田市観光ツーリズム協会」が発足しました。各地域の特色ある各種体験交流メニューや地域特徴をまとめたたり、情報の一元化や体制、質、価格の維持など、全体の質の向上を目指しています。また、今年度は雇用創設・起業化に向けての事業を推進するなど、「竹田を愛する人が竹田に住み続ける」取り組みへと発展



夕刻、梵鐘の合図に合わせて点火される竹灯籠。

DATA 竹田研究所
竹田市大字々々2250番地1
TEL: 0974-1963000
http://www1.onn.ne.jp/taketai/